

中学校 保健体育科 部会

部会長名 香春町立勾金中学校 校長 川浪 修司
実践者名 川崎町立川崎中学校 教諭 梅津 一也

1 研究主題

「球技（ゴール型）における生きる力を育む学習指導の研究」
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して～

2 主題設定の理由

近年、情報化やグローバル化によって、予測できない急激な変化の中、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化している。良い影響としては、どんな情報でも瞬時に捉えることができ、どのような作業においても効率化されており、利便性が向上している。その反面、すぐに情報を得ることができるということから、自ら考えたり、人と人が直接対話したりする機会が減少し、コミュニケーション能力が低下しているという現状が見られる。

これらの背景から、平成28年12月の中央教育審議会答申では、これから子ども達に育成すべき資質・能力は①生きて働く「知識・技能」、②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」であるとしている。さらに、授業改善の視点として「カリキュラム・マネジメント」や「主体的・対話的で深い学びの実現」ということが求められている。

そこで、本研究は球技（ゴール型）の特性を生かして、自身の課題を発見させ、その課題解決に取り組ませる。学習過程の中では、ペア学習やグループ活動を多く取り入れ、互いに助け合い・教え合おうすることで意識の共有を持たせ、一人ひとりが学びへの意欲を高め、自己表現力が高まっていくのではないかと考え、本主題を設定した。

3 主題の意味

生きる力を育む学習指導とは、①生きて働く知識・技能の習得をさせること、②思考力、判断力、表現力を育成すること、③学びに向かう力・人間性等を涵養することの3点を偏りなく育成できるような授業づくりを行うことである。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善とは、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の3つの学びの視点から、①生きて働く知識・技能の習得、②未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成、③学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養の3点を育成するために学習過程の質的改善を行うことである。

球技においては、自身の活動の振り返りを行うことにより課題を発見し、それを解決するためにペア学習やグループ学習の形態で授業を展開し、交流活動を多く取り入れることで自らの知識を広げていけると考える。最終的には、様々な知識や情報をもとに自身の課題解決に向けて取り組む姿が身についていくと考える。

4 研究の目標

球技（ゴール型）の学習において、ペア学習やグループ活動により、個人やチームの課題を交流させていく活動を多く取り入れることは、生徒の深い学びを実現させ、生きる力を育むことに影響するのかを究明する。

5 研究仮説

第3学年の球技（ゴール型）において以下の手立てをとることで、生徒の生きる力を育むことができると考える。

- (1) 本単元における決まり事を一貫して取り組ませることで意欲を高めさせる。
 - ①一つひとつの動きを恥ずかしがらずに行う。
 - ②動画を利用し、必ず自分のプレーを振り返る。
 - ③他人の動きをしっかりと観察し、アドバイスをを行う。
- (2) 生徒の意欲が高まるような言葉がけを行い、交流しやすい環境を整える。
 - ①生徒達の発言や活動内容に肯定的な言葉で対応する。
 - ②専門的な知識を詰め込むのではなく、できるだけ様々な視点から生徒にわかりやすい言葉がけを心掛ける。
 - ③基本的には、一方的な教師側からのアドバイスは行わない。
- (3) 毎時間、振り返りや交流する時間を取り入れ、課題の発見・解決に向けての学びの場を設定する。

6 研究の計画

- (1) 単元 ハンドボール（球技：ゴール型）
- (2) 単元の目標
 - ・積極的に授業に取り組むとともに、互いの良さを認め合い、自身の役割を理解しながら、仲間と協力して取り組むことができる。（関心・意欲・態度）
 - ・既習内容から課題解決に向けて運動に取り組むことができる。（思考・判断）
 - ・基本技能を用いて、空間を利用してチームが有利になる動きができる。（技能）
 - ・競技のルール、空間認識能力についての知識を学び、課題発見に向けて取り組むことができる。（知識・理解）
- (3) 単元指導計画

※次のページ参照

7 指導の実際

- (1) 本時 平成29年11月17日（金）5校時 実施学年 第3学年2組 於：体育館
- (2) 本時の主眼
空間認識能力を理解し、チームが有利になる場所に動くことができる。
- (3) 本時の主眼を達成するための手立て
タスクゲームを行わせ、グループで交流活動を行うことによって、個やチームの課題を見つけ、解決に向けた練習内容を考えさせる。

時数	学習活動 学習内容	評価基準				評価方法
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解	
1	オリエンテーション 既習事項の振り返り	球技（ゴール型） における学習のね らいを理解し積極 的に取り組んでいる。			学習規律や球技 （ゴール型）の特 性について理解し ている。	様相観察
2	既習事項の振り返り グルーピング	自身の役割を果た し、仲間と協力作 して意欲的に取り組 んでいる。			ペア・グループ学 習の特性を理解し ている。	ワークシート 様相観察
3	空間認識能力の理解				空間認識能力を理 解している。	ワークシート
4	空間認識能力を高める （個人）			空間認識能を使い 有利な動きをする ことができる。	球技（ゴール型） における空間認識 能力を高めること の意義を理解して いる。	ワークシート
5	空間認識能力を高める （チーム）			空間認識能を使い 有利な動きをする ことができる。	球技（ゴール型） における空間認識 能力を高めること の意義を理解して いる。	ワークシート
6	リーグ戦に向けた チームでの取組	課題解決に向けて 積極的に取り組ん でいる。	課題に応じて練習 方法を工夫するこ とができる。			ワークシート
7	リーグ戦	自他を尊重し協力 して取り組んでい る。	自身の役割を果た し、取り組み方を 工夫している。	空間認識能力を発 揮して取り組むこ とができる。		ワークシート 動画観察 様相観察
8	リーグ戦	自他を尊重し協力 して取り組んでい る。	自身の役割を果た し、取り組み方を 工夫している。	空間認識能力を発 揮して取り組むこ とができる。		ワークシート 動画観察 様相観察

(4) 準備

ワークシート、ホワイトボード、ミニコーン、ビブス、ボール、バドミントンシャトル

(5) 指導過程

学習活動・内容	○指導上の留意点 ◆評価基準	形態	配時
1. ウォーミングアップを行う。 (1) ストレッチ、キャッチボール	○ハンドボールで使う部位を 意識させストレッチを行わ せる。	一斉	10
2. めあての確認 【めあて】 チームが有利になる場所に動こう！	○既習している「空間認識能 力」を意識させる。	一斉	5

<p>3. 「空間認識能力」を高めるトレーニングを行う。</p> <p>○トレーニング内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3人又は4人組で行う ※ 3人の場合はシャトル5つ4人の場合は7つ ・ 中央においたシャトルを自分の場所に3つ集めると勝ち ・ シャトルは1度に1つ運ぶ ・ 30秒×2セット行う <p>4. タスクゲームを行う。</p> <p>○ルール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5連続チームでパスを回すと1点 ・ 相手が触るとカウント1に戻る ・ 接触は禁止 ・ 2点取ったチームの勝ち <p>○ボール所持者の制限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4歩以上動いてはいけない ・ ドリブルをしてはいけない ・ 3秒以上持たてはいけない 	<p>○安全に留意させるために、以下の注意事項を守って行わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シャトルは投げない ・ 他の人と接触しない <p>○空間認識能力が高いチームと低いチームでの違いを説明し、意識を高めて行わせる。</p> <p>◆自チームが有利になる空間を見つけ、動くことができる。</p> <p>◆他チームのゲームの中で、空間を有効に使えているか観察することができる。</p> <p>○ゲーム間などに作戦会議を行う時間を与え、空間認識能力を意識させる。</p>	<p>小集団</p> <p>小集団</p>	<p>10</p> <p>15</p>
<p>5. 本時の振り返りを行う。</p> <p>(1) 本時で学んだことをまとめる。</p> <p style="text-align: center;">【まとめの例】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>空間を上手に使うことで、チームとして有利にゲーム運びが出来る</p> </div> <p>(2) 交流を行い、次時の意欲を高める。</p>	<p>○ゲームを観察して感じたことなどを発表させる。</p> <p>○チームの課題を考え、その課題解決に向けた練習内容を話し合わせる。</p>	<p>一斉</p>	<p>5</p> <p>5</p>

8 研究のまとめ

本研究において、球技（ゴール型）の学習の中でペア学習やグループ学習を通して個人やチームの課題を交流させる活動を多く取り入れた授業形態で取り組んできた。その結果、多くの生徒が「自分にはない考えと違った考えを聞いたことが良かった。」ことや「自分では見えないところを指摘してもらって改善できたのが良かった」など肯定的な意見が多く、深い学びの学習を実感させるためにとっても有効であったと考える。

9 成果と今後の課題

成果

- 「決まり事を一貫して取り組ませることで意欲を高めさせる」という手立てに関しては、生徒達が良く理解して取り組んだため、生徒が見通しを持った学習環境の中で授業を進めることができた。
- 「生徒の意欲が高まるような言葉がけを行い、交流しやすい環境を整える」という手立てを用いたことによって、生徒達も自由に意見交流をして活動する姿が伺えた。さらに、運動に対して意欲的ではない生徒も自ら課題解決に向けて取り組もうとする姿が伺えたことは非常に成果であった考える。
- 以前は、教師に課題を与えられて自分の課題を知り、その解決方法を探すという授業形態が多かった。しかし、「毎時間、振り返りや交流する活動時間を取り入れ、課題発見・解決に向けて学ばせるようにする」という手立てを用いたことによって、課題発見の段階から生徒に意識を持たせることで、解決に向けての取り組みに対する意欲が非常に高くなっていたことが成果であると考えている。

課題

- 課題解決に向けた練習方法を考えさせる段階で、教師側の発言で練習内容が限定してしまい、工夫された練習内容にならなかった。今後、より深い学びの学習を実感させるためには、教師の問いかけやアドバイスの仕方を改善していく必要があると考える。

◎参考文献

- ・ 中学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省）H29. 9
- ・ なぜ、我々は授業改善の道を歩むのか（福岡県教育庁筑豊教育事務所）H26. 3